

橋梁長寿命化修繕計画を策定しました！！

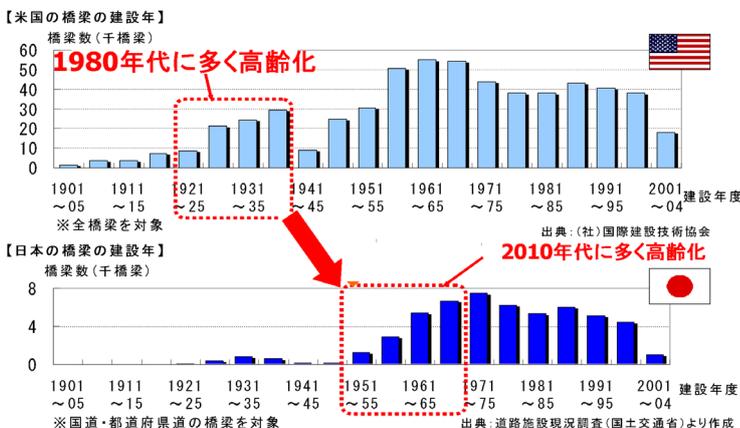
～社会資本の高齢化に対応した戦略的で効果的な維持管理を推進します～

道路建設課・道路環境課・都市計画課

進行する橋の高齢化

アメリカでは、日本に比べて約30年早い1920年代から本格的に橋の建設が始まりました。しかし、建設後の維持管理が十分でなかったことから、1980年代から橋の損傷が多く見られるようになり、その結果、通行規制や落橋事故が相次いで発生しています。

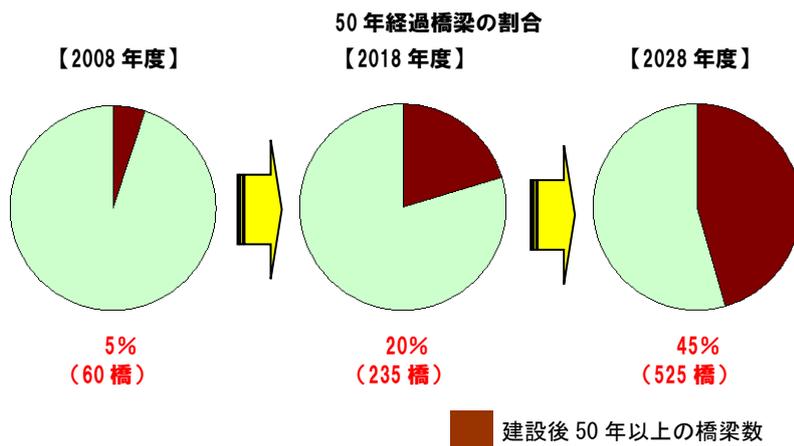
日本においても、各地で重大な損傷が発見されています。20年後には、建設後50年以上経過する橋の割合が約半数となることから、今後は計画的な修繕を行うことが求められています。



岩手県における橋の現状

岩手県が管理する長さ15m以上の橋のうち、建設後50年以上を経過した橋は2008年度時点で60橋(5%)ですが、2028年度には525橋(45%)になると予測されています。これらの橋梁について、損傷が深刻化してはじめて大規模な修繕を実施する従来からの事後保全的な方法で維持管理を行った場合、コストが非常に高くなり、適切な維持管理が困難となる恐れがあります。

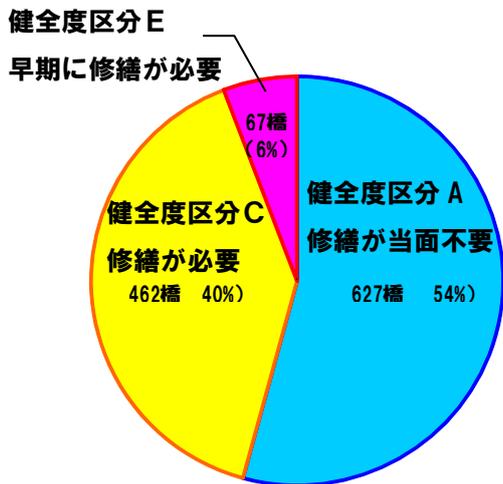
このため、これまでの事後保全的な維持管理から、計画的かつ予防保全的な維持管理に転換し、長寿命化を図ることによりコスト縮減と道路交通の安全性を確保する必要があります。



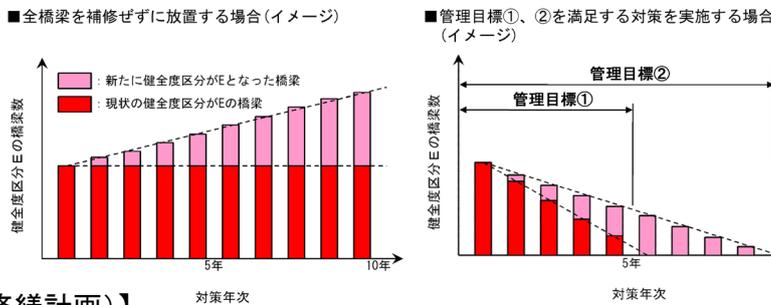
橋梁長寿命化修繕計画

岩手県では、橋を安全で長持ちさせるため、橋の専門家による委員会(岩手県橋梁長寿命化検討委員会)を設置し、15m以上の橋梁の長寿命化修繕計画(1,156橋分)を策定しました。

今後は、この計画に基づき、橋の健康状態を常に把握し、どの時期にどのような修繕を行うのが望ましいかを考え、計画的かつ効率的に修繕工事等を実施して行きます。



【管理目標】
 管理目標①：平成17年度から平成20年度に実施した橋梁点検において、健全度区分Eと判定された橋梁については、平成20年度から5年以内に対策完了
 管理目標②：健全度区分がEへ移行すると想定される健全度区分C橋梁については、平成20年度から平成29年度(10年後)までに対策完了(10年後の健全度区分Eの出現数ゼロ)



【県ホームページ(岩手県橋梁長寿命化修繕計画)】

<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?nd=815&of=1&ik=3&pnp=17&pnp=66&pnp=781&pnp=815&cd=19897>

取り組み事例(修繕工事)



橋げたの錆



コンクリート床版のひびわれ



舗装のひびわれ、高欄の損傷



橋げたの塗替え



コンクリート床版の打替え



舗装打替え、高欄の取替え

道路網の安全性・信頼性の確保に努めていきます！！